

2005年7月4日

自分で考え行動する力を身につけよう

－能力強化(Empowerment・エンパワーメント)を考える－

開倫塾

塾長 林 明夫

Q これから高校で勉強する中学生やこれから大学で勉強する高校生が行うべきことは何だと林さんはお考えですか。

A (林明夫。以下省略) 上の学校に進学することを決めたのなら、高校や大学で勉強する目的を明確に持つことです。何のために勉強するのか目的がはっきりしていないと、大変な思いをしてせっかく入学した高校や大学での生活が虚無感(きよむかん)、つまり虚(むな)しきで溢れてしまいます。虚無感に溢れると、授業だけには形だけ出席するけれども全く勉強しない高校生、大学生となります。勉強の内容は学年が進めば進むほど高度になりますから、授業だけでは十分な学力はとうてい身に付きません。そうなるとうい成績は取れず、もし取れたとしても形だけですのですぐに見破られてしまい、就職が困難となる場合が多いようです。フリーターという形で働かざるを得ないのには色々な原因がありますが、その一つは、高校や大学で本気になって勉強に打ち込まなかった結果であると私には思えます。

Q クラスの大半が進学を希望し、先生や保護者も進学することを勧めるため、私も進学する方がよいのではと思っているのですが…。これから進学する高校や大学で勉強する目的をどのように見つけたらよいのですか。

A 私は、新聞を毎日一時間以上しっかり読み込むことを心からお勧めします。最初は興味のあるところだけでもよいですから、とにかく新聞を毎日一時間じっくりと読み込んでみて下さい。

地元や日本、世界で起こっている様々な出来事だけでなく、本の紹介、読者の意見、悩みごとの相談、健康維持の仕方、仕事をうまくする方法、お金の賢い使い方、素晴らしい人物の紹介、行ってみたいくなる場所、食べてみたいくなる料理の記事など、ギッシリためになる最先端の情報が詰まっているのが日本の新聞です。詩や短歌、俳句、川柳、小説、自叙伝まで読め、クイズやクロスワードパズルまで楽しめます。

もしできれば、保護者に許可をもらい、家の人を読み終えた昨日の新聞を頂戴(ちょうだい)して下さい。そして、自分の専用のもので一日中かばんの中に入れ持ち歩き、なめるようにスミからスミまで読んで下さい。これはと思うところには朱(あか)で線を引き、切り抜いたりノートに書き写したりすることをお勧めします。

どうか新聞を一日一時間以上、このように読み方を工夫しながら腰を落ち着けてしっかり読む習慣を、これから迎える夏休みに身に付けて下さい。色々なやり方で新聞を毎日一時間以上読むことで、世の中で何がどのように話題になっているのか、問題になっているのかが少しずつ分かってきます。すると、興味や関心が少しずつわき上がってきます。そのことが上の学校で勉強するよいきっかけとなることも多いと私は思います。

Q 新聞を読むことで興味や関心がわき、上の学校で勉強する意味を考えるきっかけになるという林さんのお考えは分かりました。しかし、それだけでは高校や大学で勉強する目的がはっきりしないときはどうしたらよいのですか。

A 人生の目的を考えることです。日本人の平均寿命は世界一高いので上手に自己管理をすれば、誰でも100歳以上まで生存が可能なのが今の日本です。人類の平均寿命の歴史を毎年のように塗り替えている日本は、その意味では誇るべき素晴らしい国だと私は思います。日本の中学生・高校生の皆様は、上手に自己管理をしさえすれば、あと90年から100年くらいは生きられる歴史始まって以来の人類となります。最大の幸福は長くこの世の中に生きることであるとも考えられます。ただ、大切なことは、生きるのなら生き生きとキラキラ輝くように生きていくことだと思います。そこで、何のために生きるのか、何を自分の人生では大切にしたいのかという人生の目的や人生における基本的なことを考えることが大事かと思えます。

新聞を毎日一時間以上ゆっくり腰を落ち着けて読み、世の中の動きを少しずつ理解しながら、自分はどうのように生きたらよいのかを考えることをお勧めします。

Q なんだか、だんだん難しくなってきました。具体的にはどのようにしたらよいのですか。

A 保護者の皆さん、学校や学習塾を含め様々な場所の先生方、先輩やクラスメート、後輩、あちこちでできた友達、知り合い等から教えていただいたことで、これは大切だと思ったことは手帳やノートにちょこっとメモしておくことをお勧めします。また、自分におきた出来事で大変な思いをしたと感じたときは、しばらく後にそのことをもう一度よく考えて、そこから学んだことをたとえ一行でも文章にしておくことをお勧めします。大きな失敗であればあるほどしばらくして考えることにより、何が大切であったのかがはっきりと判(わか)ってくると思われます。つらい失敗からの自分へのプレゼントとうけとめ、大切に思うことはメモしておくことをお勧めします。

毎日の生活の中でこれは素晴らしいと感じたことがあれば、テレることなく文章にしておくことです。自分の町の素晴らしさが判るのは、自分の住んでいない町に行ったときである場合が多いです。行った先の町の素晴らしさと一緒に、自分の町の素晴らしさも文章にしておきましょう。チャンスがあればどんどん外国にも出かけ、その国の素晴らしさをたくさん探してみましょ。同時に外国に行ったときほど日本の素晴らしさを本気でじっくり考え、文章にまとめておくことをお勧めします。

この学校はどうしようもない学校だ、この町はどうしようもない町だ、日本はどうしようもない国だと言いつける人が日本にはあまりにも多すぎます。もちろん、問題点はたくさんあり解決しなければなりません。よくよく見てみると皆さんの学校にも、皆さんの町にも、そして私たちが住む日本にも素晴らしいところはたくさんあります。ヨーロッパやアメリカに行き、アジアはどうしようもない地域だと言う人もいます。なるほど、アジアには貧困や人口爆発など解決しなければならない問題はたくさんあります。しかし、アジアにはアジアの自然や文化、伝統、精神など世界に誇るべき素晴らしいものがたくさんあります。もっと言えば、もしかしたら皆さんの中に自分はどうしようもない人間だと思っておられる人がいるかもしれません。私がお願いしたいのは、そのような人ほど、どのような人に対しても、その人の欠点や問題点にはあまり注目しないでほしいということです。その人の素晴らしさ、よいと思われるところを一つでも探してみてください。出会った人の素晴らしさ、よさを一つでも多く見つけ出せば自分の素晴らしさ、よさを見つげ出せるきっかけとなります。

自分自身のよさは何なのかが分かってくると、自分が大切にしたいことはいったい何なのかを考える「ゆとり」が生まれるのではないかと思います。私は、中学生・高校生の皆様には、自分の足りないこ

とを見つけてそれを補うと同時に、もっともっと積極的に自分のよさを見つけ出し、そのよさをどんどん伸ばすことにエネルギーを使ってもらいたいと希望します。

Q 自分のよさを伸ばすには、どのようにしたらよいのですか。

A 二つあります。

第一は、好きなことにとことん打ち込むことです。ただし、打ち込むときにはせっかく打ち込むのですから、一番レベルの高い先生について打ち込むことです。よい先生を探し当て、その先生について時間の許す範囲で好きなことを好きなだけ行うことをお勧めします。

私の生まれた足利市には、日本最古の大学と言われる足利学校があります。一時期、日本の中世における学問の中心は足利学校でありました。足利学校の先生の説明では、学問を志す僧侶がその当時の世界の最先端の学問を学ぼうと、全国各地、遠くは九州から何十日もかけて来たそうです。学びたいことを一日で学び、その日に帰る僧侶もいましたが、農業をしながら一生かけて学び続けた僧侶もいたそうです。このように、学びたいことの学び方、打ち込みたいことの打ち込み方には色々な方法があります。

第二は、本を熱心に読むことです。中学校や高校の各科目の教科書に載っているような人の書いた本を、できるだけ丁寧に熱心にお読みになることをお勧めします。

国語の教科書には、現代の作者だけではなく近代や中世の作者の書いた古典も紹介されています。社会や理科、美術や音楽にも日本だけではなく各分野で世界を代表する人物の紹介があります。少し読みにくいかもしれませんが、それらの人々の書いた作品を図書館や書店、インターネットで探し出し、是非積極的に読むことになることです。

本を読んでいてこの人はという著者に会ったら、一生かけてその人の書いた本を何回も何回も読み直すことです。その人の本を初めて読むときは、その人から何かを得ることが読むことの目的であったのが、何年かごとに、何回も読み直すごとに、その本の内容を自分で考え自分の生活や人生に生かすことができるようになります。書店に並んでいる本が全て人生をかけて何回も読み直すに値するものばかりとは言えませんが、学校の各科目の教科書で紹介されている人物の書いたものは、それに近いものが多いと私は思います。

自分自身を見つめ直し、自分のよさを見出し、そのよさを伸ばすのにもっとも役立つものの一つが、今述べた意味での「読書」です。日本の中学生と高校生にもっとも欠けているのが、このような意味での「読書」であると思います。

Q 読書をするときのアドバイスはありますか。

A 「書き抜き読書ノート」を一冊お作りになることをお勧めします。

本を読んでいて心に触れる「これは」と思う文章に出会ったら、「書き抜き読書ノート」に何文字か書き写しておくことです。一冊読んで一行でも十分です。(書名と著者名を付記) 折に触れ、この「書き抜き読書ノート」を読み返しながらいろいろ考えてみる、深く深く考えてみると面白いと思います。

ここまでくれば、なぜ現在勉強しなければならないのか、なぜ進学するチャンスがあるのなら、上級学校である高校や大学に進学をして勉強をしたほうがよいのかが分かってくるのではないかと思います。

Q 「仕事」とは、いったい何ですか。「仕事」をして収入を得るために高校や大学に行くといわれるのですが、林さんはどのようにお考えですか。

A 「仕事」というのは、「世の中のお役に立つこと」だと私は考えます。「世の中のお役に立つこと」をした対価として自分自身で「収入」を得、その自分自身で得た「収入」の範囲内で自分の生活をする。（「収入」の中には家族の収入も入りますので、家族で暮らす場合には、家族合わせた収入の範囲内で家族全体が「支出」をし生活をする。一人で暮らしている人が最近多いようですが、一人暮らしの人は一人の「収入」の範囲内で「支出」をし生活をする。こうなります。）

以前はそうであったかもしれませんが、現代の社会では、どこの学校を卒業すれば高い収入が得られるなどということはありません。特に、民間企業は中小企業も大企業も共に、非常に厳しい世界を相手とする競争に勝ち抜いたところだけが生き残るとさえ言われていますので、学校の名前だけで採用する企業はありません。

高校や大学などでどのくらい真剣に勉強に打ち込んできたのか、新聞などでよく勉強して、現代という時代をどのように考えているのか、どのような社会がこれから来ると考えているのか、その上で、この会社で何をして会社に貢献したいのか、高校や大学でよい成績を得た上で、このようなことを真剣に考えている学生を企業でも政府でも求めています。当然、このような高い志(こころざし)を持った人にはハード・ワーク(厳しい仕事)が求められますので、期待に応えられる成果が出せた場合には、地位が上がり「収入」も高くなります。高い「収入」と卒業した学校とは全く関係ありませんが、学校時代にどれだけ新聞などを熱心に読み、現代の問題点を認識し未来の社会を考えたか、専門分野を極めると同時に幅広い読書をして自分自身を磨いたかが仕事をし結果を出す上でとても大切です。

Q 学校で学ぶことは、仕事の上で役に立つのですか。

A 勿論、スポーツや芸術活動はリフレッシュになりますし、自分自身の生活を管理する意味で保健や家庭科の深い理解も欠かせません。

スポーツに打ち込むことは、強い体力を鍛えると同時にスポーツマンシップを身に付けることにもつながります。スポーツマンシップとは何かとえば、私は、フェア・プレイの精神ではないかと考えます。相手の尊厳を守りながら、決められたルールの中で正々堂々と戦う「フェアネス」つまり「公正さ」はスポーツの基本と私は考えます。激しい全力を尽くしての試合終了後、勝者は敗者の健闘を讃(たた)え、敗者は勝者の栄誉を讃え合う姿は本当にすがすがしいものです。

現代の企業や政府に求められていることの一つは、コンプライアンス(法令遵守)、つまりルールを守りその中で仕事をするということです。スポーツで一番大切なフェア・プレイの考え方が「仕事」でも大切になってきます。

「仕事」をするとき、最も大切なことの一つは、決められた「時間」に元気に職場に到着することです。仕事の前の晩に夜更かしをし過ぎて、ボーとした状態で職場に行くなど禁物です。仕事になりません。不規則な食事、ジャンクフードばかりの食事は避けなければなりません。栄養が偏っていますので、疲れがたまりやすくよい仕事はできませんし、欠勤の原因にもなります。ひう一つは、正しい服装と言葉遣いです。だらしない服装や乱暴な言葉遣いは相手を不愉快にさせると同時に、個人だけでなく会社の信用も失い、お客様を失う原因になります。会社の倒産にさえ結びつきます。服装の「だらしなさ」と「乱暴な言葉遣い」は、学校時代から厳しく教えられることが求められます。

Q 結構「仕事」をするのは大変なのですね。

A どのような「仕事」でも、世の中のお役に立てなければ成立しないのですから、当然厳しいものです。いくら一所懸命みんなが頑張っている、誰かがちょっとしたミスをするだけで会社全体の信用を失います。

ところで、どこの会社でも困り果てているのが「躰(しつけ)」です。私は「躰」には二つの内容があると考えます。

一つは「美しい立ち居振る舞い(たちいふるまい)」です。もう一つは「敬語表現を含む言葉遣い」です。その場所の雰囲気著(いちぢる)しく損なう「だらしない服装」は「美しい立ち居振る舞い」とは言えません。何年か前に、その年のインター等の全国大会で活躍した何十人かの高校生を、ある経済団体が表彰するために、知事を招いてパーティーを催したことがあります。驚いたことに生徒たちのあるグループが、コンビニの前でよく見かけるように車座に座りこんで食べ始めました。引率の先生を含め誰一人として注意をしなかったため、場内の大ひんしゆくを買いました。私が場をわきまえるようお願いしたところ、文句を言われる筋合いではないと言いかえされましたが、その中に私を知っている高校生がいて、立ち上がって食べてくれました。浜辺ではあたりまえの服装も町の中では異常に見えます。場をわきまえることは重要です。

昨年末、インドでの国際会議に参加するため飛行機に乗った際、日本からの修学旅行の高校生を見て、何百名もの人々がほとんど絶句(ぜつく)していました。男子生徒のほとんどはパンツが見え、女子生徒のほとんどが高校にはふさわしくない奇抜な化粧をしており、そこには引率の先生と旅行者の添乗員がいたからです。日本はなんという国だ、なんという教育をしているのだ、このような恥知らずの団体とは同じ飛行機に乗りたくないと思う多くの人が英語で話しているのを聞き、複雑な思いがしました。

高校生たちは、飛行機の中ではいたって真面目で、インドについての資料などを熱心に読んでいる生徒が大部分でした。パンツが見え、化粧が厚すぎたことが他の大部分の乗客、とりわけ外国人の乗客のひんしゆくを買ったのでした。

Q 自分たちの世界では当たり前でも、他の世界に行くとひんしゆくを買うのですね。

A パンツが見えることは、海外だけでなく日本でもひんしゆくを買うと考えた方がよいと思います。高校生の厚化粧も同様です。中学や高校のときは、一生のうちで最も美しいときですから厚化粧は不要と私は考えます。

「敬語表現を含む言葉遣い」ができず言葉が乱暴ですと、友好的な人間関係はなかなか築けません。がまんの限界を越えるとケンカになったり二度と会いたくないということになります。意見を言うのは自由ですが、そのときはできるだけ相手の立場に立ったものの言い方や遠回しの言い方をした方がよい場合もあることを、いろいろな機会に勉強してもらいたいと思います。

私がお勧めしたいのは、お手本になる人を何人か探して、その人の動作や言い方を勉強することです。日本に昔から伝わる能、狂言、日本舞踊、弓道、剣道、華道、茶道、日本画、俳句、短歌、そろばん、書道などのスポーツや芸術、習い事に打ち込むことは、先に示した二つの意味での「躰」を身に付けることにとっても役立ちます。スポーツや音楽、絵画、演劇、芸術活動、伝統芸能、料理に打ち込む間に、「躰」は身に付くことも多いようです。皆さんの大好きな「お祭り」に参加している間にも「躰」は大切なこととして先輩から教えられます。

Q 中学生や高校生が「躑」の面で身に付けたほうがよいことはありますか。

A 授業中は一切口を開かないことです。もちろん質問をしたり、意見を述べあったり、ペア・ワークをするなど授業にとって必要な場合は積極的に参加すべきです。しかし、授業と関係のない「おしゃべり」(私語)は授業の妨げになるもので、許されるものではありません。おしゃべりがあると、先生は予定した内容を教えることが難しくなります。また、他の生徒はおしゃべりに気を取られますから先生の授業に集中できません。いうまでもなくおしゃべりをしている人も学力が身に付きません。

社会に出て、会議や打ち合わせのときにおしゃべりをするようなことがあれば、その人は他人に迷惑をかけ、また、誠実に仕事をしなかったということで、大切な仕事は任されず、何回注意されてもおしゃべりが止まなければ仕事を失うことになります。このように、授業中はお口にチャックが必要な場合以外、一切口を開かないことが大切です。

授業中は、先生の目を見ることです。先生と目を合わせることも大切です。授業を受けているのに先生の方を向かずに別の方向に目を向けていることは著しく礼儀に反します。

授業中に眠ることも決して許されることではありません。夜、十分睡眠を取り、授業中はカッと目を見開いて真剣に授業に臨むことは、中学生、高校生としては当然身に付けるべき「躑」の内容となります。

最後に、外部から人を招き話をお聞きするときには、ノートや紙を用意してメモを取ることです。メモを取らずに聞いた話をすべて記憶できる人は少ないと思います。人の話を聞くときには、メモを取り続けることも学校時代に身に付けておくべき大切な「躑」です。

社会に出て仕事がよくできる人と、いつまでたっても仕事がよくできない人の差はどこから生まれるのかと言えば、仕事の内容や手順(プロセス)、問題点やその解決方法などについて、打ち合わせや会議などの間じゅう、メモを取り続けているかどうかで決まるような気がします。仕事の上で必要なことは、質の高い仕事ができるように事細かにメモを取り続け、そのメモを必要に応じて見直し続けることです。お客様からもビジネス・パートナーからも、会社からも、よくやってくれたねという高い評価が得られる源が「メモ」とも言えます。中学生・高校生のうちに「メモ」を取り続ける習慣を身に付けられたら素晴らしいと思います。人の話を聞くときには、是非皆様も「躑」とは何か、「美しい立ち居振る舞い」とは何か、「敬語表現を含む言葉遣い」とは何かを自分のこととして真剣にお考えになり、どのようにしたらそれが身に付くかもお考え下さい。

これは「どのように生きるか」つまり、「自分が理想とする生き方」英語で言う「ライフ・スタイル」の問題ともつながります。中学生や高校生は、もう十数年この世の中に生きているのですから、そろそろ少しずつ「自分の頭で物事を考えること」「考えたことを自分の責任で実行に移すこと」をスタートすべきであります。

Q 学校の勉強をしなくてはならないし、入学試験も受けなければならないので、そこまで考えたことはないのですが…。

A 何のために学校で勉強するのか、何のために入学試験を受け上の学校に行くのかといえば、自分の頭で考え、自分の責任で行動するためであると私は思います。ですから、何をを目指すのかもお考えになった方が、学校での勉強、それから上の学校に進学するための試験勉強も楽しくなると思います。